

アボカド露地栽培における苗木生存率向上技術

施設で2年間育苗した樹冠容積の大きい3年生苗木を露地に定植することで定植10ヶ月以降の生存株率が高まります。

背景・目的

- アボカドは、寒さに弱く、結果が不安定な品目（果樹）です
- 露地栽培においては、苗木を樹冠容積が小さいまま定植しても気象災害や獣害を受けやすく、成木まで生存できないことが多いため、露地栽培での生存株率向上のための育苗方法について検討しました

成果の内容

- 露地ほ場に定植した2年生苗木の生存株率は、夏季の干ばつや台風及び寒害による樹体損傷により43%程度です（データ省略）。
- 施設で2年間育苗した苗木の樹冠容積は、「ピンカートン」が1.1m³、「ベーコン」が1.5m³（表1）。
- 露地ほ場への定植10ヶ月及び21ヶ月後の生存株率は、「ピンカートン」が100%、「ベーコン」が89%でした（表2）。

表1 施設で育苗した3年生苗木の生育状況

品種	樹冠容積(m ³)			樹冠直径 (m)	樹高 (m)
	2019/6/3 (育苗開始時)	2020/6/1 (1年後)	2021/5/6 (2年後)		
＜開花型Aタイプ＞					
ピンカートン	0.08	0.70	1.07	1.00	1.55
＜開花型Bタイプ＞					
ベーコン	0.06	0.65	1.54	1.16	1.66

表2 3年生苗木の露地定植後の生存株率

品種	定植樹数 (本)	生存株率(%)	
		2022/3/1 (定植10ヶ月後)	2023/2/1 (定植21ヶ月後)
＜開花型Aタイプ＞			
ピンカートン	9	100	100
＜開花型Bタイプ＞			
ベーコン	9	88.9	88.9

※露地ほ場へは2021年5月11日に株間2.0m、列間3.0mで定植



写真1 施設育苗した「ベーコン」3年生苗木

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 露地アボカドの栽培予定者が大苗育苗後に定植することで、露地アボカド生産者の生産性の向上につながります。
- 普及対象地域 南那珂地域アボカド栽培希望生産者

留意点

- 市販の接ぎ木苗を冬季最低温度5℃以上を確保した施設において、45L黒色プラスチックポット（用土は赤土3：腐葉土1：ボラ1で混和）にて、有機質肥料（N:P:K=6:8:4）150gを年2～3回に分けて施用して育苗した結果です。

関連研究成果カード：2022年後期 番号12

関連事業名：宮崎の気象条件を活かしたアボカド導入のための技術開発（県単）

研究期間：2018～2022年度